小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	医療法人社団松涛会	代表者	斉藤　正樹
事業所名	小規模多機能 ケアタウン山の田	管理者	保多盛　優子

法人・事業所の特徴	小規模多機能ケアタウン山の田は、地域包括ケアの考えをベースに作られた複合施設の中にあり、内科、薬局、リハビリセンター、グループホーム、コンビニ、サービス付き高齢者向け住宅と共に一つの地域を創りあげています。利用者個々の生活のペースを大切にし、地域の中でその人らしく生きる為の支援を行っています。自治会活動に参加し、近隣の方々やボランティアの訪問も受け入れ、地域と共に歩むことを目指しています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	1人	人	1人	人	5人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	・利用者カンファレンスを毎月15日に開催し、新規利用者についても入所前後の情報や課題、ニーズなどを把握できるように努める。 ・利用者、その家族と、より良い関係を築けるように行動する。挨拶だけでなく、近況を伝える、困ったことがないか伺うなど対応を心掛ける。	・利用者カンファレンスは毎月、第二木曜日の13時から定期的に行い、状態変化やニーズへ対応した。 ・利用者だけでなく、ご家族とも近況を報告する、雑談をする等し、信頼関係を築けるよう行動した。	・遠慮がちで要望を言われない方、伝えられない方の思いを表情や行動から読み取れるように、コミュニケーションの能力を高めるような勉強会などを行なっていきたい。 ・何か意見があってもケアタウンの職員は、嫌な顔せずしっかりと対応して下さっている。	勉強会をスキルアップのために有効なものにするため、前年度よりもレベルを上げたテーマへ取り組む。チェックシート方式を活用し、常に自分のケアを振り返ることが出来るような仕組みを作る。
B．事業所のしつらえ・環境	・外部評価時だけでなく、運営推進会議前に小規模多機能に立ち寄っていただき、日ごろの様子を見ていただけるようにする。 ・生花や玄関の作品については引き続き行っていく。竹炭やコーヒー豆など消臭について検討する。	・ケアタウン山の田職員全員で、利用者様が快適に過ごして行けるように環境整備に取り組んだ。臭いについてはコーヒー豆の消臭の他、お香やアロマ等工夫をしている。	・いつ来ても、玄関、施設内は、とても綺麗に掃除が行き届いている。香りは茶香呂もお勧めである。	音や匂いにも気を配りながら、どなたがいついらしても気持ちよく過せる環境づくりを目指す。
C．事業所と地域のかかわり	・地域資源を把握する。（ボランティアなど、どのようなものが地域にあるか） ・ボランティアや職場体験など、拠点長を通じて地域の学校などに依頼する。 ・地域連絡会、自治会会議への参加。	・地域の行事へは、良く参加させていただいている。文化祭、餅つき大会、公園の清掃活動など。 ・職場体験は、希望があれば受けたいと考えているが地域の学校にアプローチするまでに至らなかった。 ・地域の会議への参加は出来ていない。	・地域の掃除にも参加してくださりありがとうございます。今月も餅つき大会があるので、参加していただきたい。	気持ちの良い挨拶を心がけ、顔の見える関係作りのため、行事には積極的に参加する。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・ケアタウン山の田の2階レストランを利用して、講座の開催などを検討する。 ・クレームや要望など記入できる用紙を作成し、サ付き住宅とも情報共有し、改善していく。	・住宅職員主導で、押し花教室、お茶会などを開催し、小規模利用者も参加出来ている。 ・用紙の作成は出来ていないが、情報共有としては、小規模で挙がった意見は住宅職員にも伝達する事が出来ている。	・管弦楽やコンサートの鑑賞だけでなく、書道、お茶、押し花などの体験型のサークル活動を昨年より工夫している。 ・安岡本部ではご意見箱の意見に回答して掲示している。掲示までの必要性は要検討として、閲覧できるように閉じて置くと良い。	利用者の知的好奇心を刺激できるような行事を工夫して提供する。利用者の希望、意見を気軽に記入できる様式を作成し、思いを暮らしに反映させる。
E．運営推進会議を活かした取組み	・職員は、オブザーバーとしてではなく、きちんとした形で運営推進会議に参加し、発言できるようにする。	・オブザーバーとしてではなく、運営推進会議に参加する事が出来た。	・同じテーブルに着いて発言出来るようになり、職員も場の空気やご意見をいただく場面などを体験し自分なりの感想を持てるようになっている。	地域での取り組みや、地域で心配な方への支援等、事業所として可能な限り関わる。個人情報保護に配慮しつつ、適切な支援に繋がるよう意見を交換する。会議に主体的に参加する職員を増やす。
F．事業所の防災・災害対策	・地域で行われている防災訓練の把握、参加。	・地域で行われている消防団などの活動が無く、見学や参加は行えていないのが現状である。	・地域の高齢者の所へ駆けつけるような訓練が出来ると良いが、下関は災害がほとんど起こらないので危機意識が低い傾向がある。 ・現状はこの建物の防災訓練で精一杯である。これからは地域の方や入居者に参加してもらいたい。	ケアタウン山の田の入居者、利用者、地域の方に参加してもらい、防災訓練を行う。防災に関する課題をまとめ、消防署の方に質問、評価して頂く機会を設ける。災害がほとんどない地域ではあるが、想定外の災害の可能性を常に意識できる体勢を作る。